

# 平成27年度事業報告

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日

## I. 概況

### 1. 全体景況

政府発表によれば、平成27年度の我が国経済をみると、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略を柱とする経済財政政策の推進により、雇用・所得環境が改善し、原油価格の低下等により交易条件が改善する中で、緩やかな回復基調が続いている。ただし、年度前半には中国を始めとする新興国経済の景気減速の影響等もあり、輸出が弱含み、個人消費及び民間設備投資の回復に遅れがみられた。政府は、「希望を生み出す強い経済」、「夢をつむぐ子育て支援」、「安心につながる社会保障」の実現に向け、平成27年11月26日に「一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策」（以下「緊急対策」という。）1を取りまとめた。雇用・所得環境が改善する中、緊急対策等の効果もあって、景気は緩やかな回復に向かうことが見込まれる。物価の動向をみると、原油価格等の下落の影響があるものの、経済の好循環が進展する中で、物価の基調は緩やかに上昇している。

この結果、平成27年度の実質国内総生産（実質GDP）成長率は1.2%程度、名目国内総生産（名目GDP）成長率は交易条件の改善もあって2.7%程度と見込まれる。

### 2. 鑄造業界の動向

- (1) 鑄造業の平成27年（2015年）の生産金額（ダイカストを除く）は、1兆3,673億円、対前年比1.8%減と3年ぶりに減少した。
- (2) 代表業種である銑鉄鑄物の生産金額は、8,216億円、同2.0%減と再び減少した。生産量では3,328千トン、同4.4%減となった。鑄鋼は生産金額が1,100億円、同8.4%減、生産量は157千トン、同8.9%減となった。
- (3) 非鉄金属鑄物（ダイカストを除く）は、銅合金鑄物の生産金額が968億円、同1.6%増と2年連続して増加したものの6年続けて1千億円を下回った。生産量も78,024トン、同1.2%増となったものの6年続けて8万トンを下回った。一方、アルミニウム鑄物は2,849億円、同1.0%増と2年連続して増加した。生産量も419千トン、同0.3%増と2年連続増加し、40万トン台を継続した。この結果、平成27年の全生産額（ダイカストを含む）に占める非鉄鑄物比率は49.5%と増加した。

表1. 鋳造品の生産額推移

単位：億円、%

平成(年)	鋳鉄鋳物	鋳鋼	銅合金	アルミ鋳物	精密鋳造品	ダイカスト
12(2000)	9,055(102.1)	1,377(109.7)	700(99.5)	2,888(103.2)	471(117.4)	4,655(106.3)
17(2005)	9,130(107.5)	1,434(117.2)	823(98.7)	2,791(107.3)	463(105.5)	6,000(108.9)
20(2008)	10,481(104.4)	1,865(106.7)	1,291(97.5)	3,085(96.3)	600(111.8)	6,968(95.2)
21(2009)	6,771(64.6)	1,328(71.2)	839(65.0)	2,074(67.2)	434(72.4)	4,435(63.6)
22(2010)	8,509(125.7)	1,367(103.0)	958(114.1)	2,631(126.9)	514(118.4)	5,765(130.0)
24(2012)	8,488(98.9)	1,280(97.6)	960(88.9)	2,744(106.3)	507(96.9)	5,806(104.1)
25(2013)	8,276(97.5)	1,288(100.6)	877(91.4)	2,717(99.0)	519(102.4)	5,687(98.0)
26(2014)	8,385(101.3)	1,200(93.2)	952(108.6)	2,821(103.8)	565(108.9)	5,874(103.3)
27(2015)	8,216(98.0)	1,100(91.6)	968(101.6)	2,849(101.0)	540(95.5)	5,839(99.4)

注1. 鋳鉄鋳物には、鋳鉄管、可鍛鋳鉄を含む。

注2. ( ) は、対前年比

表2. 鉄鋳物の生産量推移

単位：千トン、%

平成(年)	合計	鋳鉄鋳物	鋳鉄管	可鍛鋳鉄	鋳鋼
12(2000)	4,941(104.2)	3,998(106.2)	580(91.3)	98(96.4)	264(102.6)
17(2005)	5,036(103.0)	4,299(104.8)	403(88.9)	58(74.8)	277(107.1)
20(2008)	5,096(97.1)	4,315(96.2)	434(104.3)	48(90.2)	299(102.0)
21(2009)	3,254(63.9)	2,621(60.7)	404(93.2)	37(77.4)	198(66.4)
22(2010)	4,030(123.9)	3,469(132.4)	316(79.1)	39(104.9)	207(104.3)
24(2012)	4,157(101.5)	3,587(101.7)	330(110.3)	37(92.5)	203(93.1)
25(2013)	4,053(97.5)	3,481(97.0)	344(104.1)	46(124.3)	182(89.7)
26(2014)	4,058(100.1)	3,482(100.0)	360(104.7)	44(95.7)	172(94.5)
27(2015)	3,927(96.8)	3,328(95.6)	399(110.9)	43(97.6)	157(91.1)

※注 ( ) は、対前年比

表3. 精密鋳造品・非鉄金属鋳物の生産量推移

単位：トン、%

平成(年)	精密鋳造品	銅合金	アルミ鋳物	ダイカスト
12(2000)	7,345(111.4)	87,093(105.3)	412,824(104.6)	833,223(109.4)
17(2005)	7,380(97.9)	97,794(92.7)	412,483(103.7)	1,064,866(108.1)
20(2008)	7,532(101.5)	98,782(92.4)	414,004(95.8)	1,093,806(94.4)
21(2009)	4,336(57.6)	75,284(76.2)	291,923(70.5)	758,316(69.3)
22(2010)	5,899(136.0)	79,293(105.3)	386,812(132.5)	980,850(129.3)
24(2012)	6,396(97.2)	79,571(95.7)	420,531(109.5)	1,006,285(108.1)
25(2013)	6,357(99.4)	73,433(92.3)	413,804(98.4)	984,842(97.9)
26(2014)	6,702(105.4)	77,113(105.0)	417,299(100.8)	1,001,099(101.6)
27(2015)	5,861(87.4)	78,024(101.2)	418,530(100.3)	975,681(97.5)

※注 ( ) は、対前年比

## II. 協会活動の概要

本年度は、鑄造産業ビジョン第3期（平成25～27年度）の最終年度として、鑄造産業ビジョンに掲げる課題、①技術開発による商品開発力の向上、②経営基盤強化と健全な取引による事業発展、③同業／異業／地域との積極的な連携による競争力強化、④海外との連携、⑤人材育成の充実、⑥環境・エネルギー対策の強化に関するアクションプラン2015に基づく事業計画により協会事業活動を推進した。本年度の主な事業活動は次の通り。

1. 平成18年度に策定した鑄造産業ビジョンは、本年度をもって10ヶ年計画を終了した。このため、鑄造産業ビジョンに基づき実施してきたこの10年間の協会事業及び業界の取組みについての総括を行い、平成28年3月に「鑄造産業ビジョンの全体評価」を取りまとめた。
2. 鑄造業界の喫緊の課題である電気料金値上げ問題については、7月に電力多消費産業11団体連名による与党幹部へのエネルギーコスト増に関する要望を行った。再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）については、会員による減免措置申請に関する情報提供を行った。業界実態をもとに自社設置メーターの設置条件等の減免措置要件緩和やFIT買取価格の上昇抑制等を平成28年度予算・税制要望として政府、議連、政治家への働きかけを行った。
3. 8月に、自動車産業適正取引ガイドライン及び素形材産業取引ガイドラインの周知状況に関するフォローアップ調査を平成26年度に続いて行い、政府へ報告して両ガイドラインの追加改訂を要望した。2月に、ユーザー宛での「健全な取引並びに安定供給に向けたお願い」、「鑄物用貸与模型の取扱に関するお願い」文書を発行した。
4. 技術開発・環境分野では、専門委員会の成果として、球状黒鉛鑄鉄の歩留り向上委員会のこれまでの10年間の研究結果を報告書に取り纏めた。環境・エネルギー対策では、CO<sub>2</sub>削減に関するアンケートを引き続き実施した。7月に、精密鑄造業の若手技術者のための精密鑄造用教科書を出版した。戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン委託）については、引き続き終了した10件の開発成果の補完研究・事業化準備を推進した。
5. 標準化では、前年度に続いて、「JIS G5901（鑄型用けい砂）」及び「JIS H2022 鑄物用銅合金地金」「JIS H5120 銅及び銅合金鑄物」「JIS H5121 銅合金連続鑄造鑄物」の原案の公示が決定した。ISO/TC25 全体会議及びWGには、今年度も2名出席し、ISO規格作成及び見直しに関して積極的な討議を行った。
6. 人材育成では、将来の鑄物工場の経営者や工場長の育成を目指した鑄造カレッジを関東・東海・関西地区の3ヶ所で、鑄鉄コース・鑄鋼コースの2コースを開催し、合計69名が受講修了した。当協会が認定する鑄造技士は平成27年度までの9年間で累計731名を認定するに至った。
7. 新入社員を対象とした新人教育研修プログラム「鑄造入門講座（鑄鉄・アルミニウムコース）」を受講生38名により4月から6ヶ月間実施した。
8. 課題解決型専門コースである鑄造カレッジ上級コース「鑄鉄材料・溶解・凝固・材質コー

ス」は、平成 27 年 7 月～平成 28 年 2 月まで開講して 17 名が受講した。砂・造型に関するカリキュラムの作成を行い、鑄鉄材料・溶解・凝固・材質コースと併せて、新たに平成 28 年度から実施する鑄鉄材料・砂型コースのカリキュラムを作成した。

9. 専門研修として、現場技術者及び作業者を対象に、「溶解」と「造型」をテーマとする鑄造の基礎技術に関する鑄造技術研修会を、東京、金沢、名古屋にて延べ 6 回開催し、181 名が受講した。前年度に続いて「品質管理技術研修会」を実施し、IT 化の推進のために「鑄造 3D-CAD 操作技能研修会」を実施した。
10. 非鉄金属鑄物分野の交流促進を目的とする非鉄情報交換会・工場見学会を開催。春季は 6 月に「GIFA+イタリア非鉄鑄造工場」の視察を、秋季は 11 月に九州の鹿児島市にて「非鉄工場見学・情報交換会」を実施した。
11. 平成 28 年 5 月に名古屋で開催される世界鑄造会議（WFC）支援として、機材部会が中心となって、設備・材料関係の出展を募った。また、当協会ブースとして鑄造メーカー会員による出展も準備した。
12. 国際活動として、6 月に 4 年ぶりに開催された GIFA 及びイタリア・ドイツへ量産・非量産・非鉄の 3 チーム 74 名の視察団を派遣した。ドイツ鑄造協会(BDG)、アメリカ鑄造協会 (AFS)、イタリア鑄造協会 (ASSOFOND)、中国鑄造協会(CFA)、台湾鑄造工学会 (TFS)、インド鑄造工学会 (IIF)、アメリカ精密鑄造協会(ICI)、欧州精密鑄造協会 (EICF) との情報交換を行った。国際会議は、5 月に春季講演会に代えて第 3 回アジア鑄造フォーラムを東京にて開催した。10 月のアメリカ精密鑄造協会の年次大会に出席し、ICI 技術講演会及び展示会に参加した。10 月の秋季大会講演会に AFS 会長講演を実施した。4 月にイタリア鑄造協会、10 月に大連鑄造協会、11 月に河南省鑄造協会、12 月に天津、泊頭、河北地区の 3 鑄造協会の訪日視察団を受入れた。1 月に木村会長がインド IFEX2016 の視察を行った。
13. 地方組織の活性化として、東海支部、北陸支部、中国四国支部の 3 支部活動を支援して地域活動を展開した。中国四国支部及び全九州銑鉄鑄物工業組合が実施した初級研修の開催支援を行った。併せて、島根県鑄造関連産業振興協議会との交流を実施した。
14. 5 月に総会に併せて春季大会講演会を東京で開催、10 月に秋季大会講演会を北海道室蘭市において日本鑄造工学会と合同開催した。若手経営者全国大会を 9 月（石川県金沢市）に講演会・工場見学会、2 月（東京）に講演会を開催した。

### Ⅲ. 会議に関する事項

#### 1. 会議に関する事項

本会運営上の基本的な事項及び重要案件を審議決定するため、総会、理事会 5 回、協会役員会 4 回、正副会長会 6 回、監事会 1 回、それぞれ開催し、事業の円滑な推進を図った。

(1) 社員総会

平成 27 年 5 月 13 日（水）、機械振興会館に於いて第 3 回社員総会を開催し、協会平成 26 年度事業報告・同収支決算、27 年度事業計画・同収支予算、理事の選任について審議・承認した。

(2) 理事会

第 11 回から第 15 回までの合計 5 回開催し、協会運営に関する重要事項について審議・決定し、事業の推進を図った。

- 1) 第 11 回：平成 27 年 4 月 20 日（月）機械振興会館
- 2) 第 12 回：平成 27 年 5 月 13 日（水）機械振興会館
- 3) 第 13 回：平成 27 年 10 月 23 日（金）登別グランドホテル
- 4) 第 14 回：平成 28 年 1 月 20 日（水）東京プリンスホテル
- 5) 第 15 回：平成 28 年 3 月 24 日（木）機械振興会館

(3) 協会役員会

第 9 回から第 12 回までの合計 4 回開催し、協会運営に関する重要事項について審議・決定し、事業の推進を図った。

- 1) 第 9 回：平成 27 年 5 月 13 日（水）機械振興会館
- 2) 第 10 回：平成 27 年 10 月 23 日（金）登別グランドホテル
- 3) 第 11 回：平成 28 年 1 月 20 日（水）東京プリンスホテル
- 4) 第 12 回：平成 28 年 3 月 24 日（木）機械振興会館

(4) 正副会長会

第 53 回から第 57 回まで、臨時を含め合計 6 回開催し、重要案件について審議した。

- 1) 第 53 回：平成 27 年 4 月 20 日（月）機械振興会館
- 2) 第 54 回：平成 27 年 7 月 8 日（水）高輪和彊館
- 3) 臨時：平成 27 年 8 月 20 日（木）械振振興会館
- 4) 第 55 回：平成 27 年 9 月 16 日（水）械振振興会館
- 5) 第 56 回：平成 27 年 12 月 3 日（木）高輪和彊館
- 6) 第 57 回：平成 28 年 2 月 24 日（水）械振振興会館

(5) 監事会

平成 27 年 4 月 17 日（金）機械振興会館に於いて監事会を開催し、平成 26 年度事業報告書、同収支決算書及び財産目録について監査を行った。

## 2. 部会に関する事項

(1) 鑄造産業ビジョン推進特別部会

- 1) 鑄造産業ビジョンの過去 10 年間の全体評価を行い、報告書を作成した。

## 2) 部会の活動

第1回 平成27年9月16日(水) 機械振興会館

第2回 平成27年11月17日(火) 機械振興会館

第3回 平成27年12月3日(木) 高輪和彊館

第4回 平成28年2月16日(火) 機械振興会館

第5回 平成28年3月3日(木) 機械振興会館

### (2) 総務部会

田中総務部会長のもとに総務部会を4回開催し、本会の財務・経理及び組織・運営(他の部会に属するものを除く)に関する事項について審議した。

第36回 平成27年6月3日(水) 機械振興会館

第37回 平成27年9月3日(木) 機械振興会館

第38回 平成27年11月19日(木) 機械振興会館

第39回 平成28年2月15日(月) 高輪和彊館

### (3) 経営部会

1) 大亀経営部会長のもとに経営部会を3回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討と、会員の企業経営に役立つ情報の提供並びに行事等の企画・立案について審議した。

第40回 平成27年6月5日(金) 機械振興会館

第41回 平成27年10月8日(木) 機械振興会館

第42回 平成28年2月3日(水) 機械振興会館

2) 重要活動事項である再生エネルギー固定価格買取制度見直しについて、資源エネルギー庁担当官による下記の説明会を開催した。

平成27年11月6日(金) 機械振興会館

### (4) 技術部会

濱田技術部会長のもとに技術部会を2回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討および委員会運営等に関する事項について審議を行った。

第1回 平成27年9月15日(火) 機械振興会館

第2回 平成28年2月23日(火) 機械振興会館

### (5) 非鉄部会

明石非鉄部会長のもとに非鉄部会を2回開催し、部会の運営方針、鑄造カレッジ非鉄コースの運営並びに委員会活動に関する事項について審議を行った。

第1回 平成27年10月19日(月) 機械振興会館

第2回 平成28年1月21日(金) 機械振興会館

#### (6) 国際部会

松永国際部会長のもとに、国際部会を2回開催し、国際交流、海外視察・調査等に関する事項について審議を行った。また、鑄造関係の国際会議やセミナー参加に対する実行企画立案、海外鑄造団体との交流推進、海外視察団の派遣等を推進した。

特に、5月13日(水)～15日(金)、第3回アジア鑄造フォーラムの建築会館ホール(東京三田)での開催を推進した。

第1回 平成27年 12月16日(水) 機械振興会館

第2回 平成28年 2月9日(火) 日本ルツボ(株)本社会議室(恵比寿)

#### (7) 中小企業部会

伊藤中小企業部会長のもとに中小企業部会を5回開催し、本協会の中小企業振興に関する事業、組合に関する事業等について審議を行った。

第44回 平成27年 4月15日(水) 機械振興会館

第45回 平成27年 7月15日(水) 機械振興会館

第46回 平成27年 10月15日(木) 高輪和彊館

第47回 平成27年 12月10日(木) 機械振興会館

第48回 平成28年 2月10日(水) 機械振興会館

#### (8) 機材部会

大久保機材部会長のもとに機材部会を3回開催し、機材部会としての活動方針・計画等に関する事項について審議を行った。また、新設の委員会として、設備委員会を設置した。

第1回 平成27年 4月15日(水) 機械振興会館

第2回 平成27年 10月14日(水) 機械振興会館

第3回 平成28年 2月17日(水) 機械振興会館

上記に追加して「ISO-新 TC 設置案への対応」の臨時機材部会を開催した。

第1回 平成27年 12月25日(金) 機械振興会館

第2回 平成28年 1月20日(水) 東京プリンスホテル

新しい取り組みとして、鑄造会社に対する「鑄造設備アンケート」を実施し、回答を得た。内容を分析し、今後の活動に役立てていくものとする。

### IV. 事業活動に関する事項

#### 1. 鑄造産業ビジョンの全体評価に関する事項

平成18年度に策定した鑄造産業ビジョンは、本年度をもって10ヶ年計画を終了した。このため、9月から鑄造産業ビジョン推進特別部会を開催して、5回にわたり審議を行い、鑄造産業ビジョンに基づき実施してきたこれまでの10年間の協会事業及び業界の取組みについての総括を行い、平成28年3月に「鑄造産業ビジョンの全体評価」を取りまとめ、公表した。審議経緯は、次の通り。

- ①2015年9月16日(水) 第1回
  - ・見直し方針案の検討
  - ・10年後のあるべき姿についてのフリーディスカッション
- ②2015年11月17日(火) 第2回
  - ・10年後のあるべき姿と分野ごとの、10年間の会員企業による取り組み状況の評価
- ③2015年12月3日(木) 第3回
  - ・協会事業の見直し(スクラップ&ビルド)
- ④2016年2月16日(火) 第4回
  - ・取りまとめ案の審議(その1)
- ⑤2016年3月3日(木) 第5回
  - ・取りまとめ案の審議(その2)
- ⑥2016年3月24日(木) 理事会・協会役員会への報告・承認

## 2. 大会及び講演会・講習会等の開催に関する事項

### (1) 春季大会

#### ①平成27年度春季大会講演会(アジア鋳造フォーラム)の開催

平成27年5月14日(木)東京にて春季大会講演会(アジア鋳造フォーラム)を開催した。

講演会 建築会館ホール 参加人数:国内93名、海外7カ国・地域55名

演題	講演者	所属
第1部 各国鋳造産業の動向 1. 2015年の日本鋳造産業の概要 2. 中国「Technology Innovation & Green Development」 3. インド「Indian Foundry Industry」 4. 韓国「Development Strategy for Korean Foundry Industry based on Energy and Environmental Issues」 5. 台湾「The Change of Taiwan's Foundry Industry」 6. モンゴル「Mongolia for Asian Foundry Industry Green Development」 7. バングラデシュ「Introduction of our industry」	1. 木村博彦 2. 張立波 3. Vikas Garg 4. Sangmok Lee 5. Hun-Yu Lin 6. Badarch Boldbaatar 7. Chowdhury AKM Yakub Sattar	1. 日本鋳造協会会長 2. 中国鋳造協会副会長 3. インド鋳造協会会長 4. 韓国鋳造工学会副会長 5. 台湾鋳造産業協会理事長 6. モンゴル金属協会副会長 7. バングラディッシュ鋳造協会事務総長
第2部 基調講演 「Challenge to Green Foundry in Japan」	森田茂隆	(一社)日本鋳造協会事務局



②平成 27 年度春季大会工場見学会（アジア鋳造フォーラム）の開催

平成 27 年 5 月 15 日（金）に工場見学会を開催した。

参加人数：A コース国内 10 名、海外 29 名、B コース国内 11 名、海外 20 名

	行 程
A コース	東京（品川）7:00 ⇒ 栗田産業浜岡工場 10:00～12:00 ⇒（昼食） ⇒ 木村鋳造所御前崎工場 13:00～16:00 ⇒東京（品川）19:00
B コース	東京（品川）8:00 ⇒日産自動車栃木工場 10:00～12:00 ⇒（昼食） ⇒ 真岡製作所 13:30～15:30 ⇒東京（品川）17:30

(2) 平成 27 年度秋季大会講演会の開催

平成 27 年 10 月 24 日（土）室蘭市にて日本鋳造工学会と秋季大会講演会を合同開催した。

講演会 室蘭工業大学 教育研究 1 号館 C 棟 A 3 0 4（3 階） 参加人数 70 名

演 題	講演者	所 属
第 I 部 経営講演 1. 「THE LEADING JAPAN FOUNDRIES」 28 社による GIFA 2015 共同出展 ～若き経営者達の挑戦～	若林 誠	(株)キャスト 常務取締役
2. 「鋳造歩留まりを 10%以上向上させる新押湯 方式の開発」	曾根孝明	(株)瓢屋 技術商品開発室 部長
3. 「勝ち残ってゆくために、、、工場“こうば”から 工場“こうじょう”への変換」	奥田由利	札幌高級鋳物(株) 代表取締役
4. 「100 年企業の経営革新への取り組み」	村瀬 充	(株)村瀬鉄工所 代表取締役
5. 「アメリカ鋳造産業の動向（仮題）」 (逐次通訳)	Bruce Dienst	アメリカ鋳造協会（AFS） 会長 (シンプソン社 CEO)
第 II 部 特別講演 1. 「現在のものづくりの潮流と素形材産業におけ る人材面に関する課題について（仮題）」	遠山 毅	経済産業省素形材産業室 室長
2. 「いのちのかがやき」	坂東 元	旭山動物園 園長

(3) 若手経営者全国大会の開催

平成 27 年 9 月 14 日～15 日に北陸地区で夏季大会（講演会・懇親会・工場見学会）、平成 28 年 2 月 19 日東京地区で冬季大会（素形材団体との交流会）の 2 回実施した。

①夏季大会

1) 講演会 平成 27 年 9 月 14 日 (木) ホテル日航金沢 参加人数 107 名

演 題	講演者	所 属
「素形材産業をめぐる現状と課題等」	岡本 武史	経済産業省素形材産業室 室長補佐
「企業経営について、若手へのメッセージ」	明石 巖	(株)明石合銅 会長
「 THE LEADING JAPAN FOUNDRIES」GIFA2015 28 社による共同出展レポート	若林 誠	GIFA 共同出展 団長 (若手 経営者委員) (株)キャスト 常 務取締役)
「素材とデザインで市場を拓く」	能作 克治	(株)能作 社長

2) 工場見学会 平成 27 年 9 月 15 日 (金)

(株) 明石合銅、石川可鍛製鉄 (株)

②冬季大会

講演会 平成 28 年 2 月 19 日 (金) インターコンチネンタル東京ベイ 参加人数 116 名

演 題	講演者	所 属
「素形材産業を取り巻く現状・課題と平成 28 年度に向けた経済産業省の取組」	岡本 武史	経済産業省素形材産業室 室長補佐
「東京・下町 町工場 奮闘記」	浜野 慶一	(株) 浜野製作所 社長

(4) 平成 27 年度サポイン成果普及支援発表会の開催

平成 27 年 7 月 17 日 (金) 機械振興会館にて、上記講演会を開催した。(技術普及委員会)

講演会 機械振興会館 参加人数 33 名

演題	講演者	所属
(1) 「アルミ基複合材鋳物のハイブリッド砂型低圧鋳造法の開発」	駒木博	(株)田島軽金属 技術部長
(2) 「鉛フリー銅合金の減圧凍結システムによる低コストで無公害な鋳造技術の開発」	青山憲	(株)加藤製作所 技術部長
(3) 「非磁性・超低温用の高強度オーステナイト球状黒鉛鋳鉄製品の製造技術開発」	大月栄治	北光金属工業(株) 管理部次長
(4) 「鋳造歩留りを 10%以上向上させる新押湯方式の開発」	曾根孝明	(株)瓢屋技術 商品開発室部長
(5) 「酸素・硫黄低減による薄肉球状黒鉛鋳鉄の製造と自動車部品の軽量化」	八重樫利之	(株)村瀬鉄工所 品質保証部長

(5) リスクアセスメント推進研修会

労働災害の減少を図るため、安全管理手法としてリスクアセスメント（機械等や作業の危険・有害性の事前評価）を推進する研修会を（一社）日本鋳鍛鋼会、（一社）日本ダイカスト協会、（一社）日本鍛造協会と合同で開催した。

平成 27 年 12 月 8 日（火） 10：30～16：10

機械振興会館 地下 3 階 B3-2 号室 参加者 6 名（4 団体合計 28 名）

(6) セミナー

（一社）日本鍛造協会、（一社）日本ダイカスト協会と合同で、高度ポリテクセンター\*の協力により、セミナーを開催した。

①「現場で役立つ鉄鋼材料の熱処理の基本」

東京（10 月 2 日（金））、名古屋（11 月 2 日（月）） 延べ参加者 50 名。

②「機械図面 読み方のポイント」

東京（11 月 30 日（月）） 延べ参加者 41 名。

③「次世代につなげる設備保全マンの人材育成」

東京（12 月 21 日（月））、名古屋（12 月 25 日（金）） 延べ参加者 29 名。

④「コスト低減につなげるものづくりの視点」

名古屋（2 月 23 日（火））、東京（2 月 29 日（月）） 延べ参加者 48 名。

\*（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構 高度職業能力開発促進センター

(7) 労働安全衛生法改正に関するセミナー

平成 28 年 6 月 1 日に施行される労働安全衛生法について、危険有害性の化学物質（特定化学物質）を取り扱う事業所において、事業場におけるリスクアセスメント（主に作業向け）、製品譲渡時のラベル表示など（製品出荷時において）が義務付けられたため、（一社）日本鋳鍛鋼会、（一社）日本鍛造協会と合同でリスクアセスメント対応方法や出荷時管理等において、中央労働災害防止協会より講師を招き説明会を実施した。

平成 28 年 3 月 25 日（金） 9：50～17：00

ちよだプラットフォームスクウェア 402 会議室 参加者 18 名（3 団体合計 42 名）

## 2. 国際競争力を発揮できる環境の整備（中小企業部会との連携）

(1) 電気料金値上げ・コストアップ分の価格反映、再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）による当業界への負担軽減への取組

① 日本鉄鋼連盟他エネルギー多消費産業団体と共同で自由民主党幹部へ 2015 年 7 月に要望を行った。

② 電気料金等の価格転嫁資料として「鋳造製品の安定供給ならびに健全な取引に向けたお願い」と電気料金値上げ・副資材等によるコスト増を踏まえた適正取引につい

て」2種類の会長名文書を発行（2015年3月12日）した。

(2) 鑄造鉄源関係者と「鉄原材料の汚染問題への対応」をテーマに情報交換会を開催

スクラップの動向」、「鋼材の製造状況について－鑄造鉄源動向に関連して－」について、それぞれ説明いただき、今後予想される鉄スクラップのハイテン化について、中小企業部会メンバーも参加して情報交換会を開催（2015年10月8日し、協会ホームページにて報告した。

(3) エネルギー安定供給並びにコストダウンのため原発の再稼働等の関係機関への要望

① 自由民主党原子力政策・需給問題等調査会需給問題等小委員会において2015年4月2日に要望を行った。

② 電力多消費産業の困窮に関するポスター第二弾を作成し、会員に配布した。（2015年4月）

(4) 経営基盤強化にかかる政策制度への対応

自由民主党「予算・税制等に関する政策懇談会」において、下記の予算・税制要望を行った。（2015年11月28日）

（予算関係）

1. 中小企業に配慮した人材育成・技術開発等への助成の充実
2. 電力多消費産業に対する省エネ投資支援施策の特例について
3. 経営者保証に関するガイドラインの周知・徹底

（税制関係）

1. 法人税等実効税率の引き下げ
2. 生産性向上設備投資促進税制の期間延長等
3. 中小企業の事業承継税制
4. 自動車関係諸税の簡素化・負担軽減
5. 地球温暖化対策税の用途拡大等の反対

(5) 鑄物議連への要望

① 自民党鑄物産業振興議員連盟総会の開催

6月3日（水）12：00より、鑄物産業振興議員連盟総会が自由民主党本部8階リバティ2、3号室にて開催された。麻生太郎会長、塩谷立顧問、新藤義孝幹事長など42名の衆議院・参議院議員が出席した。

協会からは木村博彦会長、伊藤光男副会長や協会役員など計17名が参加した。また経済産業省から製造産業局、資源エネルギー庁、素形材産業室、中小企業庁事業環境部財務課、経営支援課・創業・技術課、厚生労働省職業能力開発局海外協力課・総務課調査官・実習併用職業訓練推進室、法務省入国管理局の関係者も出席した。

協会からの要望は、I. 重点要望項目①再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)の見

直し、②原子力発電の安全性を確保した早期再稼働を含めた安価で安定的なエネルギー供給、③取引慣行適正化 II. 施策関連要望、①外国人技能実習制度の期間延長等、②経営者保証に関するガイドラインの周知・徹底 III. 予算関連要望、①中小企業に配慮した人材育成・技術開発等への助成の充実、②電力多消費産業に対する省エネ投資支援施策の特例について IV. 税制関連要望、①中小企業の事業承継税制、②自動車関係諸税の簡素化・負担軽減、③地球温暖化対策税の用途拡大等の反対—の 10 項目について要望を行った。

経済産業省製造産業局・経済産業政策局、素形材産業室、資源エネルギー庁、中小企業庁担当者、厚生労働省職業能力開発局、法務省入国管理局などからそれぞれ説明があり、意見交換の後、議員連盟としての決議を採択し、総会は終了した。

## ② 民主党日本鑄造産業振興議員連盟総会の開催

6月4日(木)17:00より、日本鑄造協会と民主党日本鑄造産業振興議員連盟との情報交換会が東京・永田町の衆議院第一議員会館で開催された。

民主鑄造議連からは直嶋正行会長をはじめ、高木義明、中川正春、大西健介、野田国義の各議員が出席、その他12名が代理出席した。協会からは木村博彦会長、松永昭博副会長や協会役員など計7名が参加した。また、経済産業省製造産業局素形材産業室、資源エネルギー庁新エネルギー対策課、電力・ガス事業部原子力発電立地対策・広報室、法務省入国管理局の担当者が出席した。

木村会長から、前回総会で挨拶させていただいておりますが、鑄造業にとって安価で安定的な電力の確保が最大の懸念材料となっており、鑄造業を取り巻く状況は、昨年と大きく変わっていない状況。

今年に入り4月から鑄造業が最も集積している中部電力の値上げがあり、値上げを実施した7電力会社のコスト負担増は約83億円となった。さらに同規模の値上げが全国で実施された場合、鑄造業全体の負担増は102億円にのぼり、まさに致命的な影響を受ける。今回、取引適正化ガイドラインの改訂があり、大変使いやすいものとなっているので、これを活用して適正価格の転嫁に取り組んでいるので是非とも政府の支援をお願いしたいと挨拶された。

協会からの要望は、I. 重点要望項目①再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)の見直し、②原子力発電の安全性を確保した早期再稼働を含めた安価で安定的なエネルギー供給、③取引慣行適正化 II. 施策関連要望、①外国人技能実習制度の期間延長等、②経営者保証に関するガイドラインの周知・徹底 III. 予算関連要望、①中小企業に配慮した人材育成・技術開発等への助成の充実、②電力多消費産業に対する省エネ投資支援施策の特例について IV. 税制関連要望、①中小企業の事業承継税制、②自動車関係諸税の簡素化・負担軽減、③地球温暖化対策税の用途拡大等の反対—の10項目について要望を行った。

まとめとして、大西議員より、今後も定期的に業界の皆さんと情報交換の場を設け、行政

の方に実情を伝えるようにしてもらおう。また、直嶋会長より、今日議論されたことを整理して、行政の状況を勉強させてもらうことで会議を終了とさせていただくと挨拶され終了した。

### 3. 鑄造業の経営改善・振興対策に関する事項

#### (1) 取引条件適正化の推進

- ①下請代金支払遅延等防止法、下請中小企業振興法、独占禁止法（優越的地位の濫用）、下請取引ガイドライン説明会・セミナーをホームページ、経営部会専門委員会等で周知した。また、改訂された自動車取引ガイドラインのフォローアップ調査を9月に実施した。
- ②「健全な取引並びに安定供給に向けたお願い」と「鑄物用貸与模型の取り扱いに関するお願い」に関する会長名文書を2016年2月に発行した。

### 4. 同業との連携

#### (1) 量産銑鉄鑄物委員会

量産銑鉄鑄物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に4回開催した。

第29回 平成27年6月10日（水）機械振興会館 参加者19名

第30回 平成27年9月3日（木）～4日（金） 参加者24名

岩手県花巻市 新鉛温泉 愛燐館、㈱アイメタルテクノロジー 北上工場

第31回 平成27年12月17日（木）機械振興会館 参加者22名

第32回 平成28年3月17日（木）～18日（金）

アクトシティ浜松、浜北工業㈱

#### (2) 非量産銑鉄鑄物委員会

非量産銑鉄鑄物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に3回開催した。

第22回 平成27年7月7日（火）高輪和彊館 参加者21名

第23回 平成27年11月10日（火）高輪和彊館 参加者20名

第24回 平成28年2月25日（木）㈱トミナガ（高知市）参加者20名

#### (3) 精密鑄造経営委員会

精密鑄造会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に4回開催した。

第40回 平成27年4月17日（金）機械振興会館 参加者8名

第41回 平成27年7月2日（木）機械振興会館 参加者8名

第42回 平成27年9月25日（金）機械振興会館 参加者9名

第43回 平成27年12月16日（水）機械振興会館 参加者9名

第1回工場見学会 平成27年11月5～6日 出席者 21名

山形精密鑄造(株) JUKI会津(株)

第2回工場見学会 平成28年3月7～8日 出席者 20名

キングパーツ(株)、(株)キャステム、(株)北川鉄工所

ベトナム・タイ工場訪問 平成27年9月7～11日 出席者 10名

#### (4) 鑄鋼鑄物委員会

鑄鋼鑄物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に3回開催し、カレッジ鑄鋼コースを開講した。

第21回 平成27年7月14日(火) 機械振興会館 参加者12名

第22回 平成27年11月17日(火) 機械振興会館 参加者11名

第23回 平成28年3月16日(水) 機械振興会館 参加者11名

#### (5) 非鉄部会情報交換会の活動

非鉄会員企業の連絡を密にし、振興を図るため情報交換会を目的に2回開催した。

GIFA+イタリア非鉄鑄造工場視察(春季情報交換会の代替)

平成27年6月17日(水)～6月27日(土) 参加者21名

イタリア非鉄工場の視察(以下の6社を訪問した。)

1. Fonderia Santa Caterina

2. Fonderia Metal Leghe

3. Teksid Aluminum

4. Modelleria Brambilla

5. Ferrari

6. UniReform

第7回 工場見学・情報交換会・懇親会 平成27年11月26日(木) 参加者41名

前橋橋本合金(株)九州工場

九州タブチ(株)上野原テクノパーク工場・国分工場

視察研修 平成27年11月27日(金) 参加24名 鹿屋航空基地資料館

## 5. 調査研究に関する事項

### (1) 市場調査委員会の活動

第20回 平成27年6月5日(金) 機械振興会館 参加者2名

平成27年6、9、12月、平成28年3月に景況調査を実施。

(調査項目)

①製品別生産量・生産金額、都道府県別生産量・生産金額、従業員数の統計調査

- ②原材料、副資材価格動向調査
- ③景況調査
- ④倒産、転業、廃業、休業調査
- ⑤需要予測調査
- ⑥景況悪化に伴う生産動向、雇用状況、資金繰り状況の調査
- ⑦ユーザー業界の生産動向

(2) 倒産・転廃業調査、鑄造業界動向について毎月ホームページにて公表した。

## 6. 鑄造業に係る施策・税制等の要望・陳情に関する事項

平成 28 年度予算・税制等要望として、6 月に民主党日本鑄造産業振興議員連盟及び自由民主党鑄物産業振興議員連盟に対して、11 月に自由民主党の「予算・税制等に関する政策懇談会」に対して鑄造業界の要望を実施した。詳細は、「2. 国際競争力を発揮できる環境の整備 (5)」を参照。

### (1) 施策関係

- ①再生可能エネルギー固定価格買取制度 (FIT) の見直し
- ②安価で安定的なエネルギーの供給
- ③取引慣行適正化について
- ④経営者保証に関するガイドラインの周知・徹底

### (2) 予算関係

- ①中小企業に配慮した人材育成・技術開発等への助成の充実
- ②電力多消費産業に対する省エネ投資支援施策の特例について

### (3) 税制関係

- ①法人税等実効税率の引き下げ
- ②生産性向上設備投資促進税制の期間延長等
- ③中小企業の事業承継税制
- ④自動車関係諸税の簡素化・負担軽減
- ⑤地球温暖化対策税の用途拡大等の反対

## 7. 中小企業振興に関する事項

### (1) 組合代表者会の活動

- 1) 第 30 回 平成 27 年 7 月 15 日 (水) 機械振興会館
- 2) 第 31 回 平成 27 年 10 月 15 日 (木) 高輪和彊館
- 3) 第 32 回 平成 27 年 12 月 10 日 (木) 機械振興会館
- 4) 第 33 回 平成 28 年 2 月 10 日 (水) 機械振興会館



(2) 組合事務局長会の活動

- 1) 第 33 回 平成 27 年 7 月 15 日 (火) 機械振興会館 (組合代表者会合同)
- 2) 第 34 回 平成 27 年 10 月 15 日 (水) 高輪和彊館 (組合代表者会合同)
- 3) 第 35 回 平成 27 年 10 月 30 日 (金) ~31 日 (土) 丹羽鑄造(株)
- 4) 第 36 回 平成 27 年 12 月 10 日 (木) 機械振興会館 (組合代表者会合同)
- 5) 第 37 回 平成 28 年 2 月 10 日 (水) 機械振興会館 (組合代表者会合同)

(3) 若手経営者委員会の活動

- 1) 第 38 回 平成 27 年 7 月 9 日 (木) ~10 日 (金) 鹿児島市 JR 九州ホテル鹿児島  
(株)九州タブチ見学
- 2) 第 39 回 平成 27 年 12 月 18 日 (金) 梅沢鑄工(株)、(株)スギヤマ 見学
- 3) 第 40 回 平成 28 年 3 月 11 日 (木) ~12 日 (金) 洲崎鑄工(株)、笠井鑄工(株) 見学

## 8. 非鉄金属鑄物に関する事項

(1) 軽合金委員会 (委員長 田島 正明)

- 1) 第 1 回 平成 27 年 5 月 12 日 (火) 産総研見学会 参加者 15 名
- 2) 第 2 回 平成 27 年 9 月 11 日 (金) (株)トウチュウ工場見学会 参加者 23 名  
(銅合金技術委員会メンバー含)
- 3) 第 3 回 平成 28 年 2 月 18 日 (木) 東京八重洲ホール 参加者 18 名

(2) 軽合金鑄造技術研修会の実施 (技術部会と共催)

平成 28 年 1 月 22 日 (金) ~23 日 (土) 機械振興会館 参加者 12 名

(3) 銅合金技術委員会 (委員長 岡根 利光)

- 第 1 回 平成 27 年 5 月 25 日 (月) 産総研見学会 参加者 24 名
- 第 2 回 平成 27 年 7 月 22 日 (水) 機械振興会館 参加者 39 名
- 第 3 回 平成 27 年 9 月 17 日 (木) 機械振興会館 参加者 37 名
- 第 4 回 平成 28 年 2 月 16 日 (火) 機械振興会館 参加者 37 名

(4) 銅合金 JIS 改正原案作成委員会 (委員長 岡根 利光)

JIS H 2202 鑄物用銅合金地金

JIS H 5120 銅及び銅合金鑄物

JIS H 5121 銅及び銅合金連続鑄造鑄物

- 1) 規格調整分科会 [金属・無機材料 (鉄鋼・非鉄金属)] ヒアリング

平成 27 年 5 月 20 日 (水) 規格協会

- 2) 第 5 回 金属・無機材料技術専門委員会 平成 27 年 12 月 14 日 (月) 経済産業省

(5) 若手幹部候補者育成

- 1) 平成 27 年 11 月 20 日 (金) 谷田合金(株)、(株)明石合銅 工場見学
- 2) 平成 28 年 3 月 3 日 (木) 若手勉強会 参加者 23 名  
大塚徹氏講演会「経営者・幹部 繁栄の決断」

9. 技術開発に関する事項

(1) 鋳型技術委員会 (委員長 渡辺 一郎 テーマ: 鋳型技術の情報紹介)

- 1) 第 1 回 平成 27 年 5 月 8 日 (金) 機械振興会館 参加者 18 名
- 2) 第 2 回 平成 27 年 8 月 25 日 (火) 産総研 つくば東事業所(見学) 参加者 21 名
- 3) 第 3 回 平成 27 年 10 月 30 日 (金) 機械振興会館 参加者 19 名
- 4) 第 4 回 平成 28 年 2 月 5 日 (金) 機械振興会館 参加者 16 名

(2) 球状黒鉛鋳鉄の歩留り向上研究委員会 (委員長 張 鐘植 テーマ: 歩留まりの極限化)

- 1) 第 1 回 平成 27 年 7 月 10 日 (金) 機械振興会館 参加者 15 名
- 2) 第 2 回 平成 28 年 3 月 8 日 (木) 機械振興会館 参加者 11 名

(3) キュポラ操業研究委員会 (委員長 米田 博幸 テーマ: 安全操業マニュアルの作成)

- 1) 第 1 回 平成 27 年 6 月 5 日 (金) 機械振興会館 参加者 9 名
- 2) 第 2 回 平成 27 年 9 月 2 日 (水) 機械振興会館 参加者 11 名
- 3) 第 3 回 平成 27 年 11 月 13 日 (金) 機械振興会館 参加者 10 名
- 4) 第 4 回 平成 28 年 3 月 4 日 (金) 機械振興会館 参加者 8 名

(4) 電気炉操業研究委員会 (委員長 菅野 利猛 テーマ: 溶解原単位の低減)

- 1) 第 1 回 平成 27 年 7 月 1 日 (水) 機械振興会館 参加者 22 名
- 2) 第 2 回 平成 27 年 9 月 9 日 (水) 機械振興会館 参加者 25 名
- 3) 第 3 回 平成 27 年 12 月 9 日 (水) 機械振興会館 参加者 24 名
- 4) 第 4 回 平成 28 年 2 月 17 日 (水) 機械振興会館 参加者 20 名

(5) 精密鋳造技術委員会 (委員長 岩瀬 稔 テーマ: 精密鋳造用ワックスの規格化)

(公社) 日本鋳造工学会精密鋳造部会との共同開催

- 1) 第 1 回 平成 27 年 5 月 22 日 (金) 機械振興会館 参加者 21 名 (9 名)
- 2) 第 2 回 平成 27 年 8 月 28 日 (金) 機械振興会館 参加者 24 名 (12 名)
- 3) 第 3 回 平成 27 年 11 月 20 日 (金) 機械振興会館 参加者 15 名 (9 名)
- 4) 第 4 回 平成 28 年 2 月 19 日 (金) 機械振興会館 参加者 21 名 (9 名)

(6) 戦略的基盤技術高度化支援事業 (サポイン委託) については、次の 3 件の終了プロジェクトの補完研究を行うとともに、2 件の事業化を推進した。また、終了プロジェクトの開発成果の事業化推進の一環として、開発成果講演会を開催 (2. (4) 参照) した。

- 1) 鋳造歩留りを 10%以上向上させる新押湯方式による鋳造方法の開発

期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日（補完研究）

2) 超細鑄抜き孔のためのカーボン中子の開発

期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日（補完研究）

3) ラピッドプロトタイピングによる精密鑄造用鑄型及び中子の迅速造型技術の開発

期間：平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日（補完研究）

4) 真球人工砂を用いた高流動低温造型プロセスの開発（事業化）

5) 不純物除去事業計画全体会議 平成 27 年 6 月 15 日（月）機械振興会館

参加者 11 名

## 10. 環境に関する事項

(1) エネルギー削減委員会（委員長 大江 雅也）

1) 第 1 回 平成 27 年 7 月 29 日（水）機械振興会館 参加者 10 名

2) 第 2 回 平成 27 年 10 月 2 日（金）日置電機(株)見学 参加者 8 名

3) 第 3 回 平成 27 年 12 月 4 日（金）機械振興会館 参加者 10 名

4) 第 4 回 平成 28 年 1 月 28 日（木）ENEX 2016 視察 国際展示場会議室

参加者 7 名

## 11. 指導・教育・人材育成に関する事項

(1) 鑄造カレッジ企画運営委員会の活動

1) 第 11 回 平成 27 年 5 月 18 日（月）機械振興会館

(2) 鑄造カレッジ企画運営委員会と日本鑄造工学会人材育成委員会との合同委員会の活動

1) 第 26 回 平成 27 年 5 月 18 日（月）機械振興会館

2) 第 27 回 平成 28 年 3 月 25 日（金）機械振興会館

(3) 鑄造カレッジ現地責任者会議の活動

1) 第 19 回 平成 27 年 9 月 8 日（火）高輪和彊館

2) 第 20 回 平成 27 年 12 月 22 日（火）機械振興会館

(4) インターンシップ施設検討委員会（WG）の活動

1) 第 1 回 WG 平成 27 年 12 月 22 日（火）機械振興会館

2) 第 2 回 WG 平成 28 年 2 月 1 日（月）機械振興会館

(5) 鑄造カレッジの開催・実施

1) 平成 27 年 5 月 13 日（水）鑄造技士認定証授与式を開催し、82 名の鑄造技士を認定した。

2) 関東・東海・関西の 3 地区において日本鑄造工学会との連携の下に鑄鉄・鑄鋼コースの鑄造カレッジを開催し、座学・インターンシップを実施して受講生 69 名が修了した。

(6) 新人教育研修プログラムの開催・実施

東京において鋳鉄コース 30 名、アルミニウムコース 8 名の受講生で教育期間 6 ヶ月間の新人教育研修プログラムを平成 27 年 4 月から 9 月まで実施、修了した。

1) 新人教育研修プログラム委員会（委員長 北澤幸廣）

第 1 回 平成 27 年 11 月 10 日（火）機械振興会館（平成 28 年度募集内容審議）

第 2 回 平成 28 年 2 月 26 日（金）機械振興会館（平成 28 年度受講生選考）

(7) 技術普及委員会の活動（委員長 鈴木伸二 鋳造技術研修会の講義内容に関する審議）  
鋳造技術研修会の講義内容の調整を行った。

1) 第 1 回 平成 27 年 4 月 2 日（木）機械振興会館 出席者 6 名  
（研修会 4 月 11 日の準備）

2) 第 2 回 平成 27 年 5 月 18 日（月）機械振興会館 出席者 7 名  
（研修会 5 月 30 日の準備）

3) 第 3 回 平成 27 年 7 月 6 日（月）機械振興会館 出席者 7 名  
（研修会 7 月 31 日～8 月 1 日の準備）

4) 第 4 回 平成 28 年 2 月 1 日（月）機械振興会館 出席者 8 名  
（研修会 2 月 26 日～2 月 27 日の準備）

(8) 鋳造技術研修会

1) 鋳鉄鋳造技術研修会

鋳造の基礎技術を、現場技術者及び作業者を対象に「溶解」と「造型」をテーマに合計 4 回開催した。後半は 1 泊 2 日で開催。（技術普及委員会）

第 1 回（造型）平成 27 年 4 月 11 日（土）東京 参加者 32 名

第 2 回（溶解）平成 27 年 5 月 30 日（土）東京 参加者 34 名

第 3 回 平成 27 年 7 月 31 日（金）～8 月 1 日（土）金沢 参加者 延べ 43 名

第 4 回 平成 28 年 2 月 26 日（金）～2 月 27 日（土）名古屋 参加者 延べ 74 名

2) 軽合金鋳造技術研修会

平成 28 年 1 月 22 日（金）～1 月 23 日（土）東京 参加者 12 名

(9) 鋳造技能研修会

中小企業の技術力の向上を図るために、会員企業が必要としている技術的案件に関する「重点テーマ」を取り上げ、現場技術者及び作業者を対象に短期間の専門技能研修会を行い、技術力の底上げを図った。

①鋳造クラウド CAE 研修会（4 回（8 日間））

第 4 回 平成 27 年 4 月 10 日（金）～11 日（土）機械振興会館 参加者 9 名

②品質管理技術研修会（4 回（8 日間））

第 1 回 平成 27 年 7 月 3 日（金）～ 4 日（土）機械振興会館 参加者 14 名

- 第2回 平成27年9月18日(金)～19日(土) 機械振興会館 参加者14名
- 第3回 平成27年10月16日(金)～17日(土) 機械振興会館 参加者14名
- 第4回 平成27年12月18日(金)～19日(土) 機械振興会館 参加者12名

③3D-CAD 技能研修会(1回(2日間))

- 平成28年1月22日(金)～23日(土) 機械振興会館 参加者8名

(10) 鑄造カレッジ・上級コースに関する活動

鑄造カレッジ企画運営合同委員会の下、鑄造カレッジ・上級コースWG(委員長 米田博幸)にて、上級コース「鑄鉄材料・溶解・凝固・材質コース」を開催した。また受講者から要望の強い砂・造型に関するカリキュラムを平成28年度より実施するための検討等を目的とした上級コース砂・造型コースWG(委員長 米田博幸)を設置し次の活動を行った。

- 1) 東京・盛岡・大阪・名古屋において17名の受講生で教育期間8ヶ月間の鑄造カレッジ・上級コース「鑄鉄材料・溶解・凝固・材質コース」を平成27年7月から平成28年2月まで実施、修了した。なお、この講座はものづくり小規模事業者等人材育成事業の指定講座として認定を受け、受講生11名がこの補助金を利用した。

- 2) 鑄造カレッジ・上級コース「鑄鉄材料・溶解・凝固・材質コース」(委員長 米田博幸)および「砂・造型コース」(委員長 米田博幸)

- 第1回合同WG 平成27年4月6日(月) 機械振興会館 出席者13名
- 第2回砂・造型WG 平成27年6月2日(火) 機械振興会館 出席者10名
- 第3回砂・造型WG 平成27年7月25日(土) 機械振興会館 出席者12名
- 第2回合同WG 平成27年10月6日(火) 機械振興会館 出席者12名
- 第3回合同WG 平成27年11月17日(火) 機械振興会館 出席者9名
- 第4回合同WG 平成28年2月13日(土) 機械振興会館 出席者15名

12. 鑄造技士会活動に関する事項

鑄造カレッジを一定の成績で終了した受講生に対する協会認定制度「鑄造技士(Foundry Expert)」は、平成27年度で660名を認定するに至った。この鑄造技士の技術のさらなる向上とネットワークを維持強化するための組織として、鑄造カレッジの6つの開催地区ごとに鑄造技士会を設立している。本年度の各地区の鑄造技士会の活動概要は次の通り。

(1) 北海道鑄造技士会

- 4月23日(木)、鑄造技術合同講演会を日本鑄造工学会北海道支部と共同開催した。

(2) 関東鑄造技士会

- 5月24日(日)、早稲田大学にて開催された日本鑄造工学会の第166回全国講演大会にて、YFE企画による鑄造カレッジ修了生(鑄造技士)による「若手が語る鑄物の未来」

講演に講演者として 2 名参加

(3) 東海鑄造技士会

11月7日(土)、愛知県鑄物工業協同組合にて講演会・工場見学会と技術交流・情報交換会を開催した。参加者は講演会に48名、技術交流・情報交換会に45名参加

(4) 関西鑄造技士会

3月25日(金)、I-Site なんばにて講演会・意見交換会を日本鑄造工学会関西支部 YFE と共同開催した。参加者は、講演会に43名、意見交換会に38名の参加

(5) 北陸鑄造技士会

①5月29日(金)、工場見学会を開催し、18名が参加

②8月8日(土)～9日(日)、サンドーム福井にて日本鑄造工学会北陸支部が開催した子供鑄物教室に参加支援

(6) 中国四国鑄造技士会

①9月3,4日、ヤンマーキャステクノ(株)(松江)にて開催された日本鑄造工学会中国四国支部主催の YFE 鑄造技術研修会へ鑄造技士10名が参加

②9～11月に中国四国支部が開催した鑄造基礎講座の講師として鑄造技士7名が8コマを担当

### 13. 標準化に関する事項

(1) 標準化委員会の活動(委員長 佐藤 和則 ISO および JIS に関する審議)

- 1) 第1回 平成27年7月24日(金) 機械振興会館 出席者11名
- 2) 第2回 平成27年9月3日(木) 機械振興会館 出席者8名
- 3) 第3回 平成27年11月11日(水) 機械振興会館 出席者6名

(2) JIS 原案の改正

1) 「JIS H2022 鑄物用銅合金地金」「JIS H5120 銅及び銅合金鑄物」

「JIS H5121 銅合金連続鑄造鑄物」原案作成委員会(委員長 岡根利光)

銅合金技術委員会にて審議(「8. 非鉄金属鑄物に関する事項」参照)

第5回 金属・無機材料技術専門委員会 平成27年12月14日(月) 経済産業省

2) 「JIS G 5901 鑄型用けい砂」原案作成委員会(委員長 清水 一道)

第1回 JIS 原案作成委員会 平成27年12月11日(金)

第6回 金属・無機材料技術専門委員会 平成28年2月2日(火) 経済産業省

(3) ISO/TC25 国内審議委員会の活動(委員長 清水一道 ISO/TC25 の規格改定等に関する審議)

- 1) 第1回 平成27年7月24日(金) 機械振興会館 出席者9名
- 2) 第2回 平成27年9月3日(木) 機械振興会館 出席者9名

- 3) 平成 27 年 10 月 6 日～9 日にロンドンの BSI にて開催された ISO/TC25 全体会議と ISO/TC25 各 WG へ参加
- 4) 第 3 回 平成 27 年 11 月 11 日 (水) 機械振興会館 出席者 9 名

#### 14. 設備・原材料等に関する事項

設備委員会は、機材部会の開催に合わせ、下記の日程で実施した。機材部会による会員会社への「設備アンケート」の実施、集計を行った。

- 第 1 回 平成 27 年 4 月 15 日 (水) 機械振興会館
- 第 2 回 平成 27 年 10 月 14 日 (水) 機械振興会館
- 第 3 回 平成 28 年 2 月 17 日 (水) 機械振興会館

上記に追加して「ISO-新 TC 設置案への対応」の臨時機材部会と設備委員会を開催した。

- 第 1 回 平成 27 年 12 月 25 日 (金) 機械振興会館
- 第 2 回 平成 28 年 1 月 20 日 (水) 東京プリンスホテル

#### 15. 国際交流に関する事項

##### (1) 海外鑄造業界との情報交換

- (a) 4 月に訪日したイタリア鑄造協会 (ASSOFOND) との情報交換を実施した。
- (b) 5 月第 3 回アジア鑄造フォーラム (AFF) を主催者として、開催した。  
参加者は日本 93 名、他に中国、インド、韓国、台湾、香港、バングラデシュ、モンゴルの 8 ヶ国・地域から、合計 148 名が参加した。  
工場見学の A,B の 2 コースに合計 70 名 (海外 49 名) が参加した。  
次回第 4 回は韓国、次々回第 5 回は台湾で開催することが決まった。
- (c) 6 月 GIFA (ドイツ・デュッセルドルフ) に参加し、量産鑄物・非量産鑄物・非鉄鑄物の 3 コースのイタリア・ドイツ鑄造工場見学ツアーに 74 名が参加した。
- (d) 10 月、ICI 年次総会 (ショーンパーク) に、2 名が参加した。
- (e) 10 月、日本鑄造協会秋季大会にて、AFS の Dienst 会長より特別講演を頂いた。
- (f) 11 月、中国鑄造協会 (CFA) の精密鑄造年次大会 (無錫) に参加した。
- (g) 2016 年 1 月、インド IFEX に木村会長が参加し、インド鑄造協会 (IIF) との情報交換を行った。

##### (2) 会員への情報収集機会の提供

- (a) 4 月、Metal China の出展に協力した。
- (b) 4 月に、イタリア鑄造協会の訪日視察団を受入れ、国内工場見学を実施した。
- (b) 9 月に、大連鑄造協会の訪日視察団受け入れ、国内工場見学を実施した。
- (c) 11 月に、河南省鑄造協会の訪日視察団を受入れ、国内工場見学を実施した。

(d) 12月に、河北省、天津、白頭鑄造協会の訪日視察団を受入れ、国内工場見学を実施した。

(e) 2016年4月に開催するWCICパリの共催団体として、参加準備を進めた。

(3) 展示会への出品の支援

次の展示会への出展を支援した。

(a) 第3回アジア鑄造フォーラムに出展した。

(b) 2016年5月WFC世界鑄造会議の出展に向け出展準備をした。(54社出展)

## 16. 労働安全衛生に関する事項

鑄造業における安全衛生対策の推進のため、リスクアセスメントの普及活動として、4団体合同で研修会を開催した(詳細は、1.(5) リスクアセスメント推進研修会を参照)。

また、労働安全衛生法が改正されるため3団体合同でリスクアセスメント対応方法や出荷時管理等について説明会を実施した(詳細は、2.(7) 労働安全衛生法改正に関するセミナーを参照)。

## 17. 表彰に関する事項

(1) 協会賞の募集・選考・表彰

日本鑄造協会の協会賞として、12月に協会功労賞、経営改善賞、技術賞、技術開発賞の募集、3月に選考を行った。また、平成26年度に決定した下記受賞者の表彰式を5月の総会後に開催した。

(2) 小林英三賞

①井上隆夫氏(井上鑄工株)

②藤田秀一郎氏(株藤田製作所)

③安田敏剛氏(戸畑鉄工株)

(3) 技術賞

①曾根孝明氏(株瓢屋)

②川島浩一氏(株マツバラ)

③小倉裕一氏(新東工業株)

④橋本邦弘氏(新東工業株)

## 18. 広報、普及啓蒙及び情報資料の提供に関する事項

(1) 広報事業

1) 編集委員会を毎月開催し、機関誌「鑄造ジャーナル」を毎月、12回発行した。また、ホームページに鑄造ジャーナルの目次を掲載した。



- 2) 協会ホームページの会員専用ページと E メールを活用し、各種情報の迅速な提供を行い情報発信の強化を行った。
- 3) 新聞・雑誌等に業界 PR 記事の提供  
報道機関に対する広報活動として、日本経済新聞、日刊工業新聞、鉄鋼新聞他の専門紙の担当記者へのプレスリリースを行い、資料の提供等取材に協力した。
- 4) 需要業界における各種調査研究資料の収集と提供を行った。
- 5) 経済産業省等関係官庁からの公報・情報収集活動と会員への提供を行った。
- 6) その他、業界発展のための広報・情報活動を行った。

## (2) 普及啓蒙事業

- 1) 経営、技術および海外情報に関する相談業務
- 2) 新技術開発・新製品開発に関する紹介
- 3) 小中高生の鋳物工場見学受け入れ、鋳物教室開催等

## (3) 情報の提供

- 1) 法律、制度並びに経営、技術、労働に関する情報の提供
- 2) 会員（賛助会員を含む）に関する情報の提供
- 3) 内外の関係情報の提供
- 4) マイナンバー制度施行への対応セミナーを 5 団体合同で開催

## 19. 会員の催物に対する協力及び協賛に関する事項

- (1) 経営、技術、労務関係、教育図書、文献、視聴覚教育資料の斡旋
- (2) 工場視察、見学会の斡旋
- (3) 記念行事、催物の表彰状、感謝状の授与
- (4) 会員主催の行事、催物等への協賛及び参加

## 20. その他本協会の目的を達成するために必要な事項

- (1) 以上の他、定款の目的に沿った各種事業を行った。

## V. 支部・地域活動、地方組織に関する事項

### 1. 東海支部活動

- (1) 支部総会を 4 月 24 日に「ウイंकあいち」にて開催（出席 57 名）、支部役員会を 4 月 24 日、11 月 29 日の 2 回開催し、併せて本部活動報告を 2 回実施。講演会は、総会時の講演会 1 回（参加者 67 名）、工場見学会は、7 月 3 日に地区内見学会（参加者 40 名）、10 月 8～9 日に地区外工場見学会（参加者 20 名）を開催した。

- (2) 支援事業として、11月7日に開催した東海鑄造技士会講演会に支部として協力した。  
さらに、日本鑄造工学会東海支部の講演会・工場見学会に協賛した。

## 2. 北陸支部活動

- (1) 支部総会を4月27日に「ホテル日航金沢」にて開催（出席者29名、うち委任状12名）、支部役員会を9月17日、2月25日、の2回開催し、併せて本部活動報告を2回実施。講演会は総会時（76名）及び11月10日に工学会支部と共催で開催（出席者43名）、地区外工場見学会（岐阜県関市）を10月13日に（参加者41名）開催した。

## 3. 中国四国支部活動

- (1) 支部総会を4月13日に「ホテルセンチュリー21広島」にて開催（参加者66名）、支部役員会を4月13日、11月18日、2月4日の3回開催し、本部活動報告を2回実施した。講演会は、総会時及び11月18日に開催（出席者67名）した。また、交歓会を11月18日に開催した。
- (2) 支部主催による鑄造基礎講座を、受講生22名にて9～11月に開催した。

## 4. その他の地域活動

### (1) 関東地区

11月19日（木）埼玉県及び川口鑄物工業協同組合主催の埼玉県鑄造技術コンクールの表彰式に協会賞を贈呈。

### (2) 東海北陸地区

4月9～10日に平成27年度東海北陸鑄物工業会の例会に伊藤副会長が参加した。

## VI. 関係官庁への協力に関する事項

### 1. 取引ガイドライン策定委員会への委員推薦

#### (1) 自動車産業適正取引ガイドライン策定委員会

平成27年9月に経済産業省自動車課による自動車産業適正取引ガイドライン改訂を行う自動車取引適正化研究会に、鑄造業界代表として木村会長が参加した。

### 2. 中央技能検定委員の推薦

中央職業能力開発協会に対して、専門調査員の推薦は無し。「鑄造（非鉄金属鑄物鑄造作業）」に4名、「基礎級 鑄造（鑄鉄鑄物鑄造作業）」に3名、「基礎級 鑄造（非鉄金属鑄物鑄造作業）」に5名、「鑄造（鑄鉄鑄物鑄造作業）」に1名、「特級 鑄造」に4名、特級科目別（品質管理）に1名、委員を推薦した

### 3. 地域工場・中小企業等の省エネルギー設備導入補助金（A 類型）の証明書発行

経済産業省の要請に基づき、平成 26 年度補正予算「地域工場・中小企業等の省エネルギー設備導入補助金（最新モデル省エネルギー機器導入支援事業）」に関する性能証明書の発行業務を、本年 3～4 月に行った。（254 件）

### 4. 「生産性向上設備投資促進税制」の証明書発行

産業競争力強化法の実施に伴う生産性向上設備等のうち先端設備に係る仕様等証明書の発行を行った（196 件）。

## VII. 関係団体との交流に関する事項

### 1. 素形材関連団体連絡会

素形材に関する交流促進や普及啓発を議論し実施する場として、（一財）素形材センターが主催する素形材団体交流委員会に角田専務理事が委員として毎回出席した。

### 2. 素形材産業優良従業員表彰委員会

（一財）素形材センターが主催する素形材産業優良従業員表彰委員会に、角田専務理事が委員長として出席し、11 月の素形材月間記念式典にて選考理由を報告した。

### 3. 鋳物関連団体への協力

- (1) （公社）日本鋳造工学会の春・秋季大会、各支部におけるセミナー、工場見学会を後援。
- (2) （一財）素形材センターの素形材月間事業（11 月）への後援。
- (3) 島根県鋳造関連産業振興協議会総会（7 月・松江市）に角田専務理事が出席し、平成 27 年度の当協会の活動概要を報告。併せて、同協議会が主催する初級講座開催を支援。
- (4) ダイカストマシン工業会主催のセミナー（2 月）への後援。

## VIII. 会員及び組織に関する事項

### 1. 組織拡充強化に関する事項

- (1) 未加入の企業、組合の加入を促進した。（正会員 5 社加入）
- (2) 本協会の目的・事業に協力いただく賛助会員の加入を促進した。（5 社加入）

### 2. 会員及び組織に関する事項

- (1) 正会員及び賛助会員（平成 28 年 3 月 31 日現在）
  - 1) 法人正会員 340 社
  - 2) 団体正会員 36 組合（509 社）
  - 3) 賛助会員 45 社